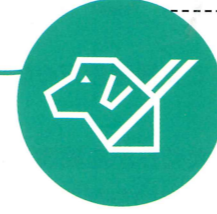


皆さんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
https://www.moudouken.net/

会報
第100号



盲導犬くらぶ

それぞれの時代を映す会報誌 おかげさまで100号に



12月 26・27・29日 **新企画**
『オンラインで知る盲導犬トリビア』配信決定
 神奈川訓練センターでは盲導犬や視覚障害について、より正しく知ってもらうために、YouTubeで動画配信する企画を実施します。ライブ配信も行う予定です。お家でのお楽しみながら学んでみませんか？
 詳細は後日協会ホームページの「ニュース&イベント」欄に公開いたします。ぜひご覧ください。
 開催日時：12月26日(土)・27日(日)・29日(火)

「盲導犬くらぶ」 記念すべき100号を迎えました

協会を支えてくださる支援者やボランティアのみならず、協会事業や盲導犬について広く伝えていこうと、会報誌「盲導犬くらぶ」が創刊されたのは1990年のことでした。本号表紙では、創刊号やその時々歴史が垣間見える表紙を抜粋しズラリと並べてみました。30年の歴史は圧巻で、懐かしくもあり、また協会の歴史を改めてひも解くよい機会にもなりました。事業を支え

てきたたくさんの職員、そして支援者の方々の思いがぎっしりと詰まっています。

100号の節目を迎え、盲導犬くらぶを愛読くださるみなさまからたくさんのお便りをいただきました。心より感謝申し上げます。これを大きな励みとして、みなさまとのつながりがより一層確かなものとなるよう、心を込めて会報誌をお届けしていきたいと思ひます。

日本盲導犬協会の歩み 2020.7.1 ~ 9.30

- 7月20日..... 第4回常任理事会
- 8月21日..... 第5回常任理事会
- 9月5日..... 盲導犬慰霊の日(神奈川・仙台・富士・島根)
- 9月14日..... 第6回常任理事会



8月20日 広島市で災害時に視覚障害者と盲導犬をヘリコプターで救助する訓練に協力。本番のつり上げまで何度もシミュレーションを重ねました



7月12日 盲導犬の使用を考える視覚障害者の方向けに盲導犬セミナーを開催。初のオンライン開催で全国から9人が参加しました



6月30日 JR福島駅で視覚障害者のための鉄道利用講習会を実施。職員含め20人が参加し、音声機能を使った切符の購入や改札機の利用法などについて確認



今年も富士ハーネスで盲導犬自由研究コンテストを開催。富士ハーネス館内に応募いただいた作品を展示しました

各センター活動報告(7月~9月)

(2020年9月30日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・ユーザーサポート	共同訓練	2回	2回	0回
	パピーレクチャー	39回	21回	11回
	パピーウォーキング修了式	1回	0回	1回
	ユーザーフォローアップ	90回	37回	15回
リハビリテーション	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	3回	9回	3回
	短期リハビリテーション	0回	0回	0回
啓発活動	その他リハビリテーション	40回(35人)	163回(116人)	33回(30人)
	見学会・団体見学	4回	9回	83回
	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	22回	37回	4回

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	17回
新聞	24回
WEB	125回
その他(雑誌など)	15回

主な放送掲載

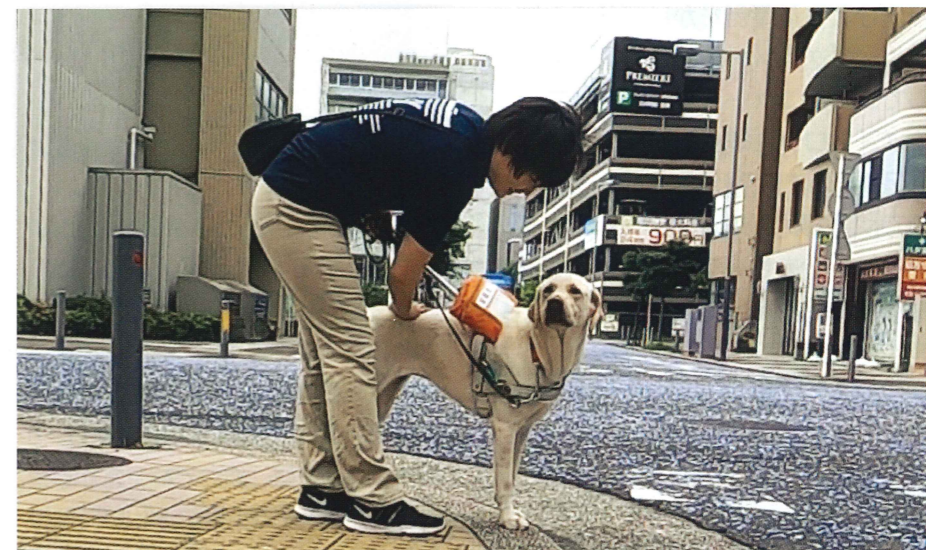
- 7月1日..... 共同通信PRWire他WEB10件 ACジャパン2020年度広告作品紹介
- 7月2日..... 点字毎日 盲導犬減少について山口専務理事のコメント紹介
- 7月2日..... 福島中央テレビ JR福島駅 視覚障害者の安全な鉄道利用講習会の様子紹介
- 8月6日..... 点字毎日 盲導犬オンラインセミナー開催
- 8月15日..... 静岡テレビ他2紙WEB4件 富士ハーネス「サマースクール」開催
- 8月21日..... 読売新聞他2紙2局WEB7件 広島市消防航空隊訓練 盲導犬ユーザーとヘリ救助訓練の様子紹介
- 8月27日..... 静岡新聞 松川電機贈呈式開催
- 9月5日..... 朝日新聞 遺贈寄付啓発キャンペーンに協会が参加 広告掲載

新型コロナウイルスとの奮闘8か月

歩みを止めない 協会の新たな決意

犬たちの成長は止められません。混み合う場所や時間をさけて訓練を続けます

2020年2月に、新型コロナウイルス感染症が国の指定感染症に定められてからおよそ8か月。これまで誰も経験したことがない事態に遭遇し、協会の活動も様々な影響を受けています。こうした中でもみなさまからたくさんの温かいご支援をいただき、それを原動力に協会職員一丸となって活動に取り組んでいます。今回は、みなさまに感謝の気持ちを伝えるとともに、どんなときでも視覚障害の方に寄り添って前進するという協会の決意と、コロナ禍の活動について報告します。



緊急事態宣言、外出自粛 これまで通りの活動ができない日々

4月に発動された緊急事態宣言によって、協会の様々な活動も変更を余儀なくされました。外出自粛要請やソーシャルディスタンスの確保により、これまでユーザーに訓練センターに来ていただいたり、訓練士が訪問したりして行っていたフォローアップは休止となり、一部共同訓練も延期にせざるをえない状況になりました。

パピーウォーカーとの月1回のレクチャー会やご自宅への定期訪問も自粛し、子犬の社会化に重要な人混みへの外出体験なども控えざるをえません。さらに、10か月間の世話をしていた感謝を伝えるパピーウォーキング修了式も通常の形では実施できず、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

また、犬の繁殖・出産をどうするか

も課題でした。現在、繁殖は神奈川訓練センター、産前・産後から子犬をパピーウォーカーに渡すまでの母子の世話は富士ハーネスで行っています。良質な盲導犬の育成には、繁殖・出産に関する専門的で確かな技術と豊富な経験が必要となるため、万が一、担当職員が新型コロナウイルスに感染したら対応しきれないかという懸念がありました。でも、子犬が生まれてから一人前の盲導犬になるには2年かかります。つまり、今の判断が2年後に大きく影響してきます。

2020年の春は未知なるウイルスに直面し、職員の誰もが大きな戸惑いとジレンマを抱えていました。

知恵を出し合い 今できることを それぞれの部署で

神奈川訓練センター長の山口義之理事はまさにこのコロナ禍で新しく専務理事に就任しました。職場での感染が起こらぬよう職員の健康を守

りつつ、状況に応じた事業を行うためにはどうしたらよいか、各訓練センターの職員みんなで知恵を出し合い、検討を重ねました。

そして、「盲導犬育成は視覚障害リハビリテーション(視覚リハ)の一環の事業。視覚障害の方の生活に支障を来すことなく支援する観点からも、事業の歩みを止めてはいけません」という固い決意をもって、それぞれの部署が今できる最良の方法で前向きに取り組んでいます。

繁殖・出産

~頭数を調整しながら着実に

出産や子犬の世話を担う富士ハーネスでは職員体制を2交代制にするか、繁殖ボランティアの力を借りて自宅出産ができないかなど様々な検討を重ねました。その結果、不測の事態に備えて現在は月に数回行っていた繁殖を月1回に調整していますが、継続的に新たな命の誕生と向き合っています。

新型コロナウイルスとの奮闘3か月

歩みを止めない協会の新たな決意

ユーザーサポート

～不安解消のための情報発信

直接ユーザーに会うのが難しい分、一人ひとりに電話をかけて状況を確認し、郵送やメールでも文書を発送してコミュニケーションを図っています。「コロナを理由に受け入れ拒否が起こるのでは？」という声もあったので、「盲導犬受け入れについて」のパンフレットを作成して発送し、不安解消に迅速に対応しています。



↑ユーザーの声をを受けて作成した「盲導犬受け入れ」についてのパンフレット。いざというときに受け入れ相手に手渡して読んでもらえるよう、全ユーザーに10部ずつ配布しました



←月1回のパピーレクチャーの様子。この日はいつもの半数の3家族で実施しました

訓練

～「密」と「暑さ」を避ける工夫

犬の夏の暑さ対策と「密」を避けるために、訓練士たちも工夫をこらします。神奈川では朝5時に出勤し、6時～9時半の間、仙台では夕方から夜8時半まで、人の少ない涼しい時間帯に訓練を行っています。早朝や夜遅くまで訓練士たちは大変ですが、犬の快適さと社会への配慮を優先してがんばっています。

パピー育成

～感染対策を徹底して再開

緊急事態宣言下で自粛していたパ

ピーレクチャーや定期訪問は、参加人数の制限や換気、消毒など感染予防を徹底して、万全な対策を取りながら可能な限り実施しています。

在宅勤務や一斉休校などで家族とパピーが一緒にいる時間が増え、ボランティアのみなさんはたくさんの愛情を注いでくれているほか、動画を使った自主訓練など、通常通りではない状況に不安を抱えながらもがんばっています。そのおかげでパピーはすくすく成長しています。

動画やオンラインを活用したセミナーなど新たなスタイルが定着

このコロナ禍でオンラインによるセミナーや動画配信などのサービスの需要が高まり、急速に普及しました。協会でも今できる最善の形で必要な人に必要な情報を届けるために、新たな活動に挑戦しています。

パピーウォーカーに^{対面}指導ができなかった3月～6月には、自主学習できるように「シット給餌」「散歩・リードさばき」など多数のレクチャー動画を作成しました。これが「動画を見ながらくり返し復習ができる！」と好評で、対面指導が再開してからも活用されています。

また、訓練部ではスマートフォンなどのビデオ通話を活用したユーザーへの遠隔フォローアップに挑戦。ユーザー自身で撮影したり、ご家族

←オンライン「夏休み自由研究プロジェクト」の様子。ユーザーも自宅から参加して盲導犬との暮らしぶりを伝えてくれました



コロナ禍でもできる普及推進活動を!

「夏休み自由研究プロジェクト」

毎年、神奈川訓練センターでは夏休み限定で見学会を実施していますが、今年は初の試みとして、子どもを対象にオンラインの「夏休み自由研究プロジェクト」という形で8月7・8・9日の3日間開催しました。

通常の見学会は参加人数や地域に限りがありますが、オンラインにしたこ

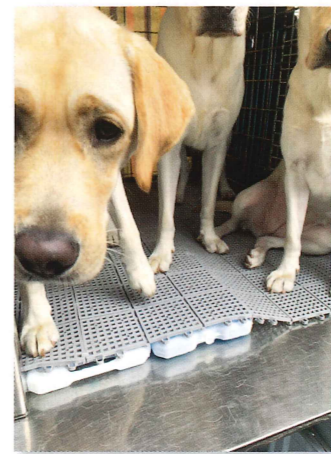
とで全国から申し込みがあり、閲覧数は700回を超えました。

初めての生配信は苦労しましたが、映像制作の準備をしながら「自分たちが伝えたかったこと」を冷静に整理できました。一般の方にも参加してもらえる内容にして、12月には、オンラインで新たな企画を予定しています。



←パピーのしつけで困ったことがあったら、預かり訓練でフォロー。バギーに乗って散歩をしていたこのパピーは生後3か月。協会の職員たちにたくさん撫でてもらいながら、社会化のトレーニング中です

→移動車両の床半分に板状の保冷剤を敷いて暑さ対策。コロナ禍で衛生管理徹底の意味からも、保冷剤は毎日きれいに洗ってから凍らせる。手間はかかっても犬たちの健康と快適さが最優先です



やヘルパーの方に撮影してもらった様子を見ながら、訓練士がリアルタイムで指導できるのでとても有効です。この方法で、神奈川、仙台、富士ハースと訓練士が連携して、遠隔で犬の評価も可能になりました。

さらに、視覚障害の方に盲導犬との暮らしを知っていただくために定期的に行ってきた「盲導犬セミナー」も、7月にオンラインで初開催。オンラインに不慣れな方も安心して参加できるよう、事前に職員が参加者一人ひとりと接続テストを行って挑みました。各訓練センターと連携し、宮城県から広島県までの9人が参加。8、9月にも開催しました。

他にも、6歳を迎える盲導犬のユーザーを対象に行う「6歳時コミュニケーション会」や、「夏休み見学会」などの恒例行事もオンラインで行いました。オンラインの活用は新たな活動スタイルの一つとして、今後も取り入れていく予定です。地域を問わないという強みを生かして、各地の行政の障害福祉担当者向け説明会、視覚リハ施設向け説明会、盲学校などへの個別のセミナーも視野に入れています。

温かいご支援に心より感謝

視覚障害や盲導犬への理解を広げる普及推進活動も、中止が相次ぎました。募金活動やイベント、講習会

など例年であれば4月からの半年で600回近く行っていますが、今年は100回ほどにとどまり、街頭での募金活動がままならない状態も長く続いています。

そんな中、ありがたいことに協会を気にかけてくださる声をたくさんいただきました。コロナ不況と言われているにもかかわらず、ご支援企業からは変わらぬ寄付をいただき、「特別定額給付金」の10万円を寄付してくださる個人の方もいらっしゃいました。

また、4月～6月にはパピーウォーカーの応募について50件ほどの問い合わせがありました。これは例年の1年分に相当する件数で、キャリアチェ

ンジ犬の飼育ボランティアの問い合わせも増えました。協会の意図に沿って預かっていただけるのかを慎重に判断する必要がありますが、盲導犬に関わるボランティアに興味をもっていただけなのはうれしいことです。

誰もが大変な状況にある中で、協会の活動を気にかけていただいていることは職員たちの大きな励みとなり、感謝の気持ちでいっぱいです。

事業を止めるな！ニューノーマル時代も前進あるのみ

新型コロナウイルスの感染拡大は、まだ終わりの見えない状況で、私たちに新型コロナに対応した「新しい生活様式」が求められています。「ニューノーマルの時代」と言われる中で協会の活動は少しずつ再開してはいますが、これまでとは違う形の活動の模索はまだ続いていくことでしょ

う。けれども、ソーシャルディスタンスで物理的な距離は空けても、視覚に障害のある方に寄り添うという心の距離はこれまでと変わりありません。どんな状況においても、今、協会にできることを考え、柔軟に対応しながら、盲導犬育成事業の歩みを止めることなくこれからも前に進んでいきます。

犬たちと関係者に感謝の気持ちを伝えたい!

「盲導犬 慰霊の日」

毎年9月に、その年に亡くなった犬たちを偲ぶ慰霊式が開催されます。例年200人以上が参列する神奈川訓練センターでは、今年はコロナ禍での開催を悩みましたが、犬たちとボランティア、関係者に感謝の気持ちを伝える新たな形を模索し、9月5日に「盲導犬慰霊の日」として開催。感染症予防の観点から、亡くなった犬たちのユーザーと家族、飼育に関わったボランティアなど、直接関わった方のみ69人にお越しいただき、41頭の犬たちを

追悼しました。ユーザーやボランティアからのコメントはメッセージボードに掲示して紹介。「コロナ禍で準備も大変だったろうけど、亡くなった犬に対してよい区切りになったので来ることができてよかった」などの声が寄せられました。



←参加者が密にならないように会場や動線を工夫し、1家族ずつ遺影に花を手向けていただきました